



東和薬品株式会社

平成26年3月期 第3四半期決算補足説明資料

2014年2月

(証券コード: 4553)

まとめ

- ・ 売上高は、前年同期比8.4%増。引き続き前年同期比一桁%後半の伸びで順調。計画を約15億円上回っている。
- ・ 売上原価率は、前年同期比1.0pt増。大地化成連結による影響約0.6ptを除けば、ほぼ横ばい。
- ・ 販売管理費は、前年同期比11.6%増。研究開発費および人件費の増加の影響が大きい。一方、対計画では、研究開発費約3億円など、計約4億円が未達。
- ・ 営業利益は、前年同期比5.4%減。対計画では、売上増、原価率低下、販売管理費の未達の影響が重なり、約16億円上回った。
- ・ 今年度決算より、大地化成を連結決算の対象としている。
- ・ 第3四半期までの売上・利益実績、および第4四半期の売上・利益見通しなどを反映し、通期業績見通しを修正した。

2014年3月期第3四半期決算概要

期	14/3 3Q			13/3 3Q	
	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	前年同期 比(%)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
売上高	45,225	100.0	+ 8.4	41,704	100.0
売上原価	22,306	49.3	+ 10.8	20,132	48.3
販管費	16,532	36.6	+ 11.6	14,818	35.5
営業利益	6,387	14.1	- 5.4	6,754	16.2
経常利益	7,597	16.8	+ 1.0	7,526	18.0
四半期純利益	5,139	11.4	+ 2.8	4,998	12.0

(為替レート)
1ドル

2013/12 2013/9 2013/3
104.39円 96.75円 93.05円

2012/12 2012/9 2012/3
85.58円 76.60円 81.19円

2014年3月期第3四半期決算概要

期	14/3 3Q (大地化成を含まない13/3と同じ連結ベース)			13/3 3Q	
	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	前年同期 比(%)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
売上高	45,225	100.0	+ 8.4	41,704	100.0
売上原価	22,018	48.7	+ 9.4	20,132	48.3
販管費	16,764	37.1	+ 13.1	14,818	35.5
営業利益	6,441	14.2	- 4.6	6,754	16.2
経常利益	7,659	16.9	+ 1.8	7,526	18.0
四半期純利益	5,270	11.7	+ 5.4	4,998	12.0

2014年3月期第3四半期決算概要

(対通期計画進捗率)

期	14/3 3Q			14/3 計画 (11月11日発表)	
	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	進捗率 (%)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
売上高	45,225	100.0	74.4	60,800	100.0
売上原価	22,306	49.3	73.1	30,500	50.2
販管費	16,532	36.6	73.5	22,500	37.0
営業利益	6,387	14.1	81.9	7,800	12.8
経常利益	7,597	16.8	96.8	7,850	12.9
四半期純利益	5,139	11.4	98.8	5,200	8.6

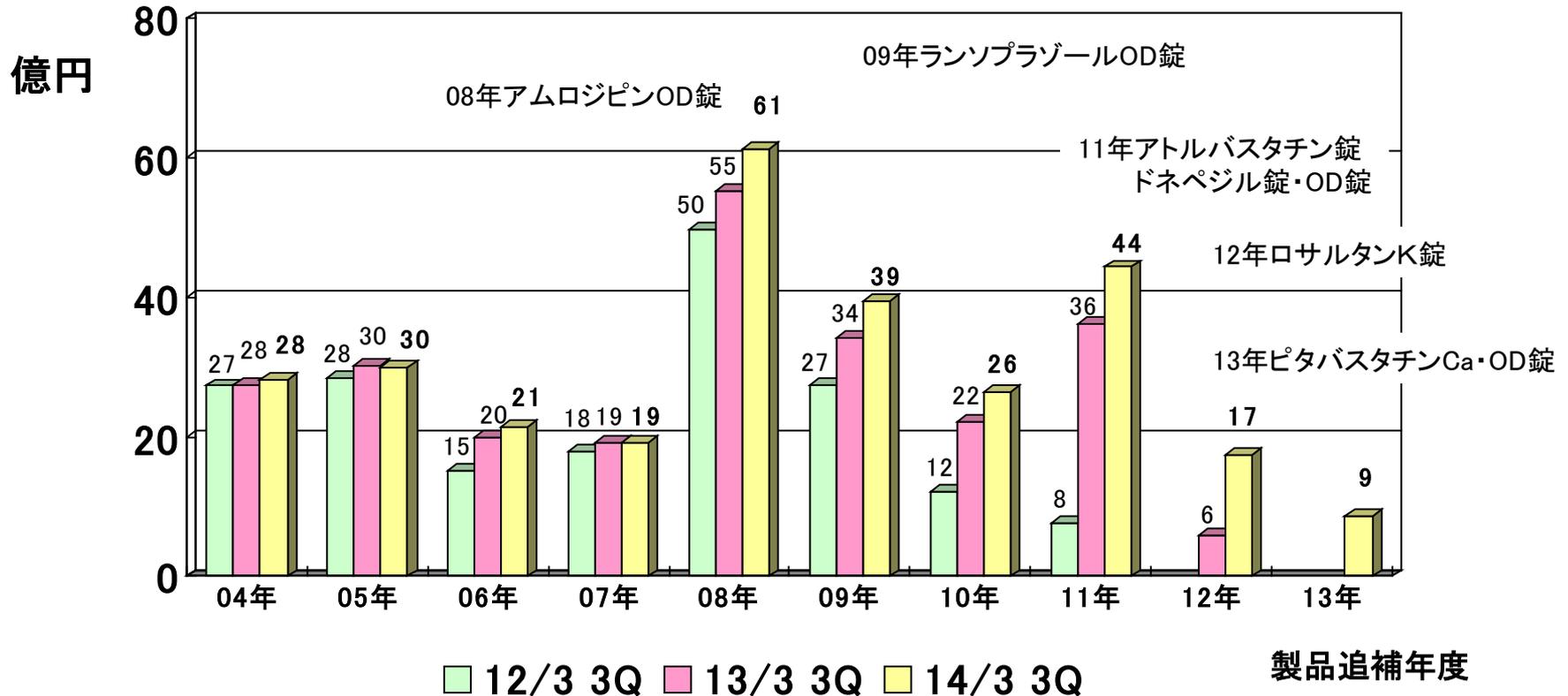
2014年3月期第3四半期決算概要

(単体)

期	14/3 3Q			13/3 3Q	
	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	前年同期 比(%)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
売上高	43,961	100.0	+ 8.5	40,504	100.0
売上原価	21,264	48.4	+ 9.3	19,453	48.0
販管費	16,372	37.2	+ 13.5	14,421	35.6
営業利益	6,324	14.4	- 4.6	6,628	16.4
経常利益	7,545	17.2	+ 2.0	7,396	18.3
四半期純利益	5,200	11.8	+ 5.6	4,924	12.2

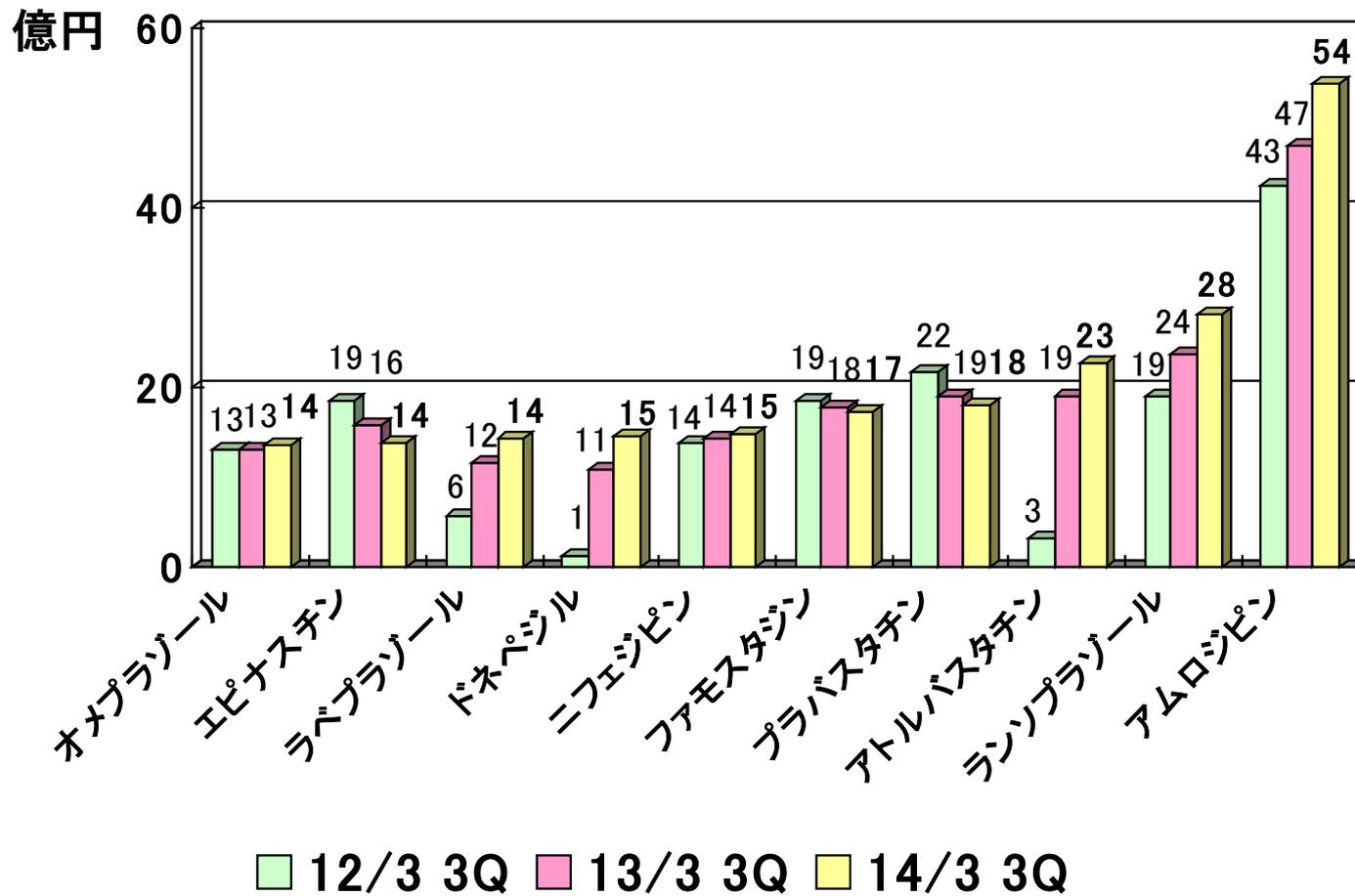
追補年度別売上高推移

12年追補が順調に伸長、13年追補も好調。



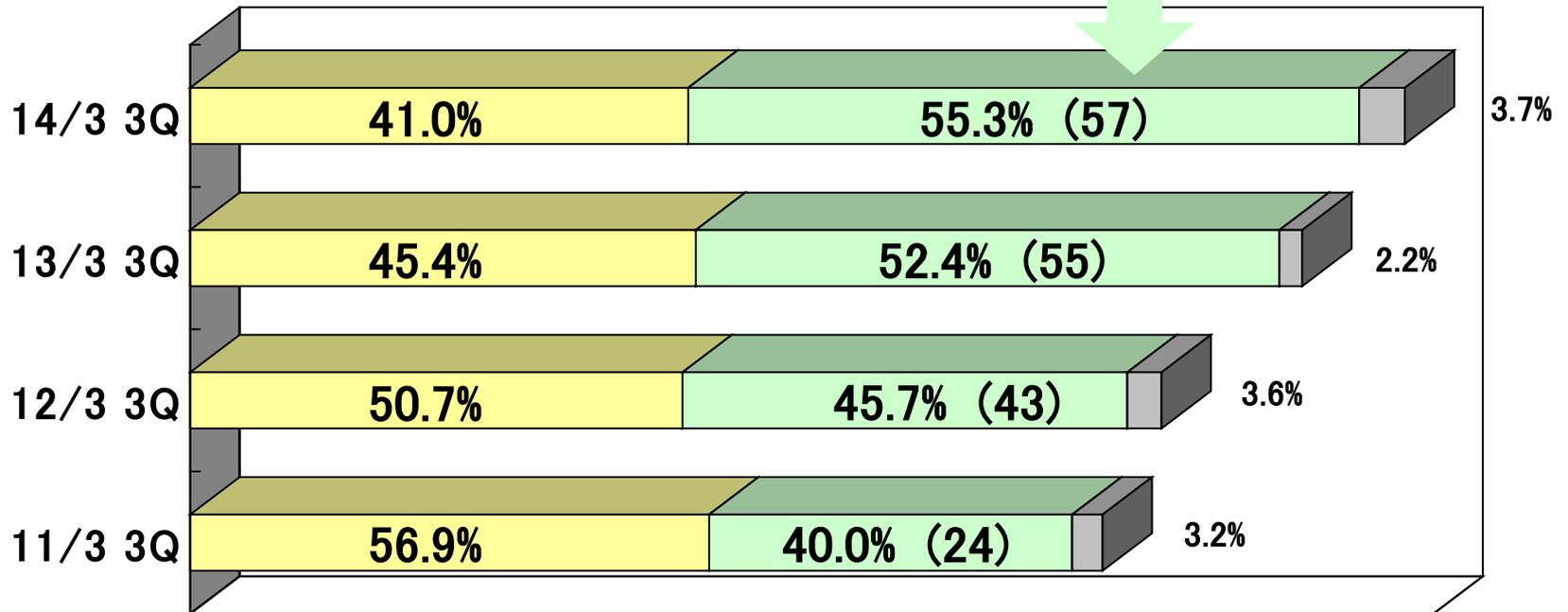
主要製品売上高推移

アムロジピン、ランソプラゾールなどが順調に成長した。



売上高詳細(販路別)

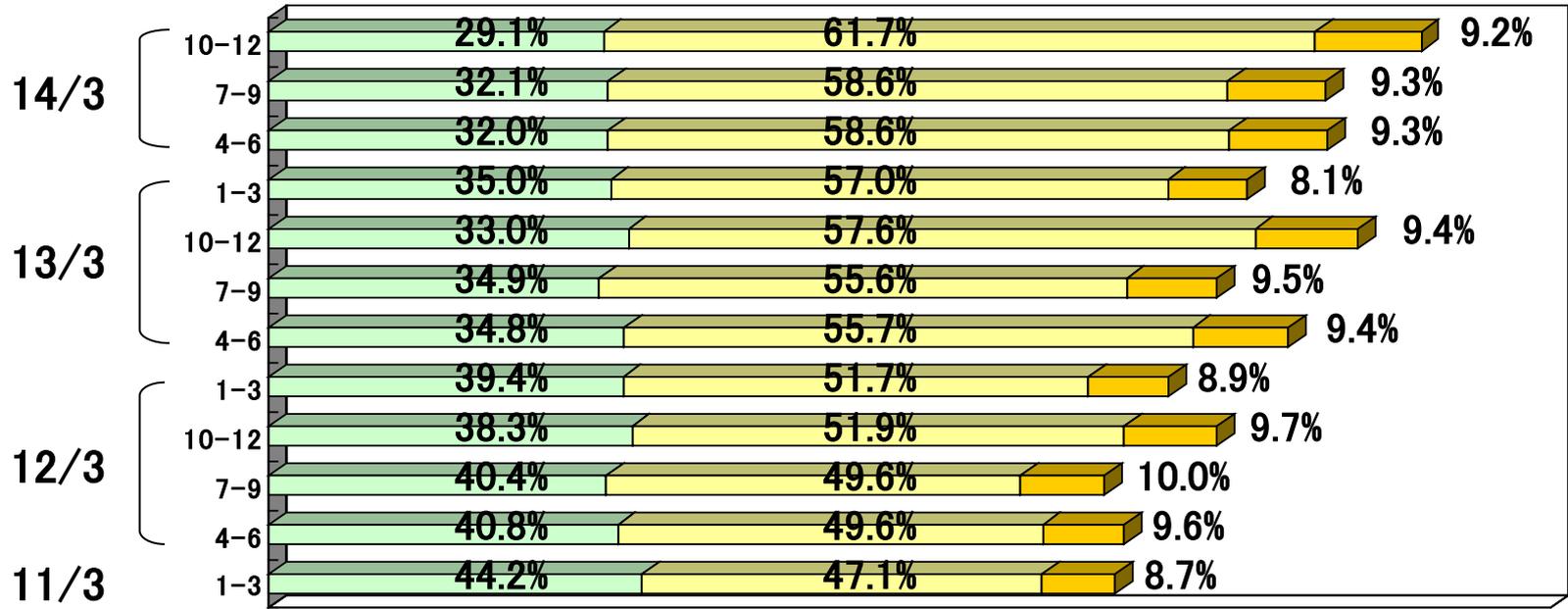
代理店の営業所化・営業所の新設、本社取引の拡大などにより、直販比率が増加。
()は営業所数



■ 代理店 ■ 営業所・本社 ■ その他(他社販売・受託・輸出)

売上高詳細(納入先別)

保険薬局向けの売上が60%を超えた。



■ 診療所 ■ 保険薬局 ■ 病院

(他社販売等を除く。診療所+保険薬局+病院を100%としている。)

販売費及び一般管理費

期	14/3 3Q			13/3 3Q	
項目	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	前年同期 比(%)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
人件費	7,221	16.0	+ 10.3	6,548	15.7
研究開発費	3,954	8.7	+ 20.6	3,278	7.9
広告宣伝費	749	1.7	+ 12.8	664	1.6
その他	4,606	10.2	+ 6.4	4,327	10.4
販管費	16,532	36.6	+ 11.6	14,818	35.5

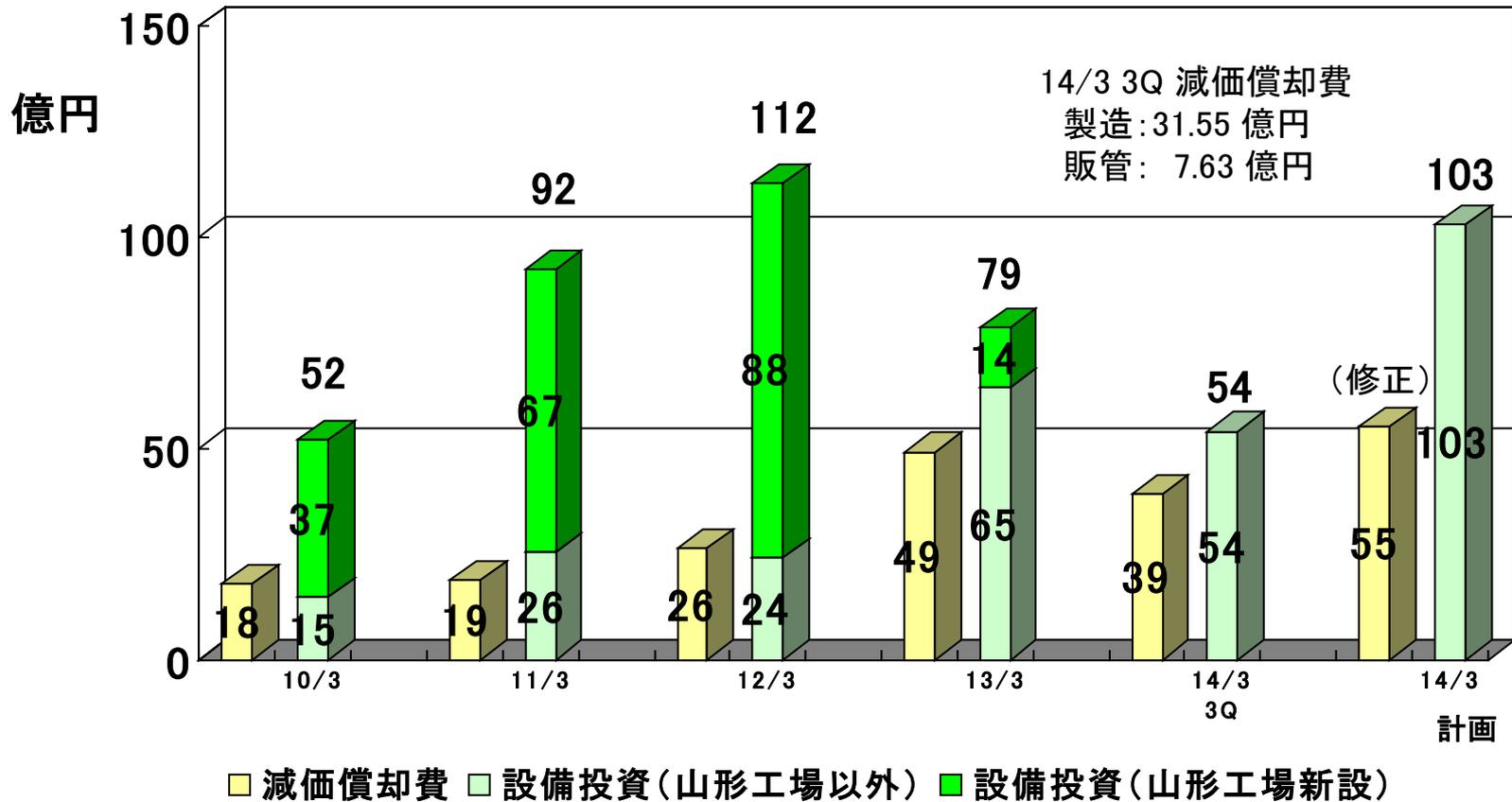
貸借対照表

(百万円)

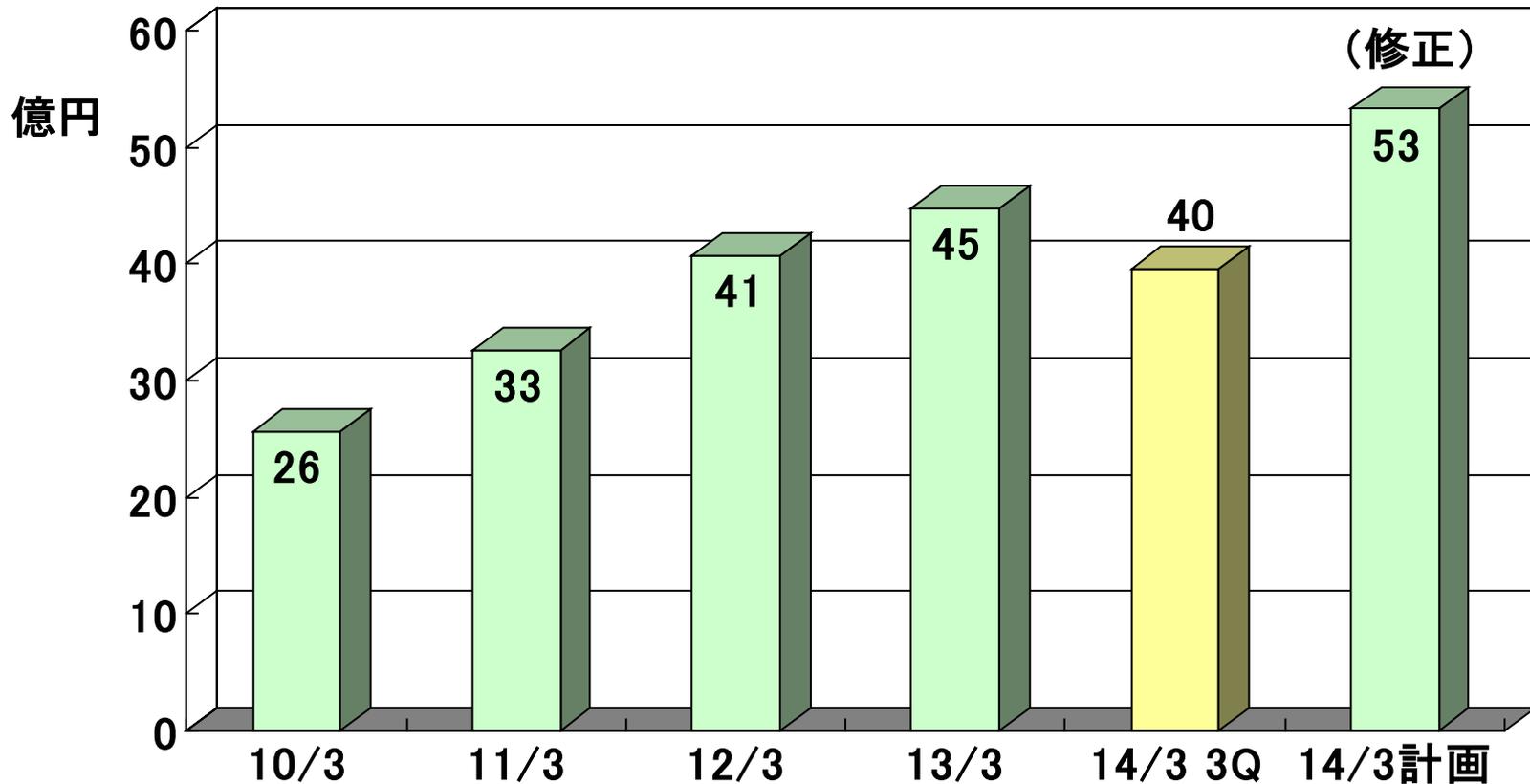
項目	13/12	13/3	増減
現金及び預金	5,680	3,485	+ 2,194
受取手形 及び売掛金	18,909	17,217	+ 1,692
有価証券	4,000	3,000	+ 1,000
商品及び製品	12,185	10,450	+ 1,734
その他流動資産	12,941	12,895	+ 45
流動資産計	53,716	47,049	+ 6,667
建物及び構築物	20,408	21,271	- 863
機械装置及び運 搬具	8,312	8,388	- 75
その他固定資産	15,193	12,996	+ 2,197
固定資産計	43,914	42,656	+ 1,258
資産合計	97,631	89,705	+ 7,925

項目	13/12	13/3	増減
支払手形 及び買掛金	8,657	7,482	+ 1,174
1年内返済予定 の長期借入金	2,925	2,825	+ 100
未払法人税等	1,087	1,667	- 580
その他流動負債	7,359	7,543	- 184
流動負債計	20,029	19,519	+ 510
長期借入金	16,696	12,908	+ 3,787
その他固定負債	1,617	1,667	- 49
固定負債計	18,313	14,575	+ 3,737
負債合計	38,343	34,095	+ 4,248
純資産合計	59,288	55,610	+ 3,677
負債・純資産 合計	97,631	89,705	+ 7,925

設備投資・減価償却費



研究開発費



3Qでの研究開発費未消化約3億円を踏まえ、
通期の研究開発費の見込みを56億円→53億円とした。

2014年3月期 通期見通し

第3四半期までの売上・利益実績、および第4四半期の売上・利益見通しなどを反映し、通期業績見通しを修正した。

期	14/3 通期見通し (2月10日発表)			13/3	
	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	前年同期 比(%)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
売上高	61,300	100.0	+ 11.0	55,241	100.0
売上原価	30,200	49.3	+ 9.8	27,500	49.8
販売管理費	22,100	36.1	+ 10.4	20,018	36.2
営業利益	9,000	14.7	+ 16.5	7,723	14.0
経常利益	9,700	15.8	+ 1.6	9,544	17.3
当期純利益	6,600	10.8	+ 6.4	6,201	11.2

2014年3月期 通期見通し

期	14/3 通期見通し (2月10日発表)			14/3 計画 (11月11日発表)	
	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)	修正額 (百万円)	金額 (百万円)	対売上高 比率(%)
売上高	61,300	100.0	+ 500	60,800	100.0
売上原価	30,200	49.3	- 300	30,500	50.2
販売管理費	22,100	36.1	- 400	22,500	37.0
営業利益	9,000	14.7	+ 1,200	7,800	12.8
経常利益	9,700	15.8	+ 1,850	7,850	12.9
当期純利益	6,600	10.8	+ 1,400	5,200	8.6

売上高:3Qの計画上ぶれ +1,500百万円

4Qの消費増税前の仮需要を保守的に見直し 2,500百万円→1,500百万円(△1,000百万円)

売上原価:足下の原価率低下を反映して見直し

販売管理費:3Qの研究開発費の未消化などを反映して見直し

その他:足下の円高などを踏まえ、保守的に4Qに営業外損失500百万円を見込む

後発医薬品にかかる薬価制度の変更について

【後発品の薬価について】

- ①今後収載される後発医薬品の薬価について
 - ・ ×0.6(内用10品目以上の場合は×0.5)
- ②すでに収載されている後発医薬品の薬価について(価格帯)
 - ・ 後発品は最高価格の0-30%、30-50%、50-100%の3価格帯でグルーピングしてそれぞれ加重平均

【後発品の使用促進について】

- ・ 後発品置き換え率60%の新目標(ロードマップ)
- ・ 現在中医協で議論
 - 【薬局】後発医薬品調剤体制加算(新指標に変更・要件の引き上げ)
 - 【病院】DPCの機能評価係数Ⅱの中に「後発医薬品指数」を新設。評価上限を後発品の数量ベースの使用割合で60%に設定。

後発医薬品にかかる薬価制度の変更とその影響について

項目	①今後掲載される 後発医薬品の薬価について	②すでに掲載されている 後発医薬品の薬価について(価格帯)
現状	×0.7 (内用10品目以上の 場合は×0.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最高価格の 30%以上は3%刻みで1価格 ・ 最高価格の 20-30%で1価格 ・ 最高価格の 0-20%で1価格 (最大で13価格帯のものがあつた)
新制度	×0.6 (内用10品目以上の 場合は×0.5)	【3価格帯】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 最高価格の 50-100% で加重平均して1価格 ・ 最高価格の 30-50% で加重平均して1価格 ・ 最高価格の 0-30% で加重平均して1価格
業界への 影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の収益性の低下 ・ 追補掲載品目の減少? 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業界全体での薬価改定率に影響なし ・ 次回も同じような価格帯になるのであれば、 次回予想価格帯の下限を意識した市場価格になる? ・ 価格以外の要素が重視されるような競争環境になる?
東和への 影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ (短期的)ほとんど影響なし ・ (中期的)売上・利益の 伸びが鈍化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加重平均により薬価が引き下げられるものの方が 引き上げられるものよりも多いと推定 ・ 適正価格販売の方針は維持するが、 部分的な修正が必要 ・ むしろ「付加価値製剤」などにより、 当社の相対的な競争優位性が高まるはず

後発医薬品にかかる薬価制度の変更が 東和薬品の2014年4月薬価改定に与える影響について

約600品目	東和薬品 薬価ベース売上		東和薬品 薬価ベース売上
約340品目	約73%	50-100%の価格帯 グルーピングして 加重平均 →	全体で 約2-3%の マイナス 影響
約170品目	約18%	30-50%の価格帯	
約90品目	約9%	0-30%の価格帯	

従来のルールで薬価改定した場合

新しい制度で薬価改定した場合

(注)さまざまな仮定をおいて社内でおおまかな試算をしたデータであり、正確性の保証はできません。また、事後の検証も困難です。

＜お問い合わせ先＞

東和薬品株式会社 経営企画部

ir@towayakuhin.co.jp

TEL : 06-6900-9101

FAX : 06-6900-0634

将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。